

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2023年 7月 6日

(宛先)
滋賀県知事

提出者

住所(法人にあっては、主たる事務所の所在地)
大阪府松原市西大塚1丁目3番40号

氏名(法人にあっては、名称および代表者の氏名)
藤本製薬株式会社
代表取締役社長 藤本 雅也

滋賀県CO₂ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項 → 第25条第4項
第27条第1項 → 第27条第2項において準用する同条例
第26条第1項
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項 の規定に基づき、
[事業者行動計画を策定 (変更)]
[事業者行動報告書を作成] したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあっては、名称および代表者の氏名)	藤本製薬株式会社 代表取締役社長 藤本 雅也
事業者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地)	大阪府松原市西大塚1丁目3番40号

1 事業者の概要

事業所の名称	藤本製薬株式会社 彦根工場					
事業所の所在地	滋賀県愛知郡愛荘町長野2202番地1					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	1	6	5	2	※ 産業分類・細分類名称を記載 医薬品製剤製造業
事業の概要	医薬品製造業					
従業員の数	105	人	操業時間	9	時間/日	
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロワット以上の事業所を県内に有する事業者					
	<input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であって、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者					
	<input type="checkbox"/> 任意提出事業者					
主要な設備	ボイラ	9	台	熱源設備	-	台
	コンプレッサ	9	台	空気調和設備	23	台
				照明設備	-	台
				その他	チラー:12台	

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	2021	年度	報告対象年度	2022	年度
	終了年度	2023	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

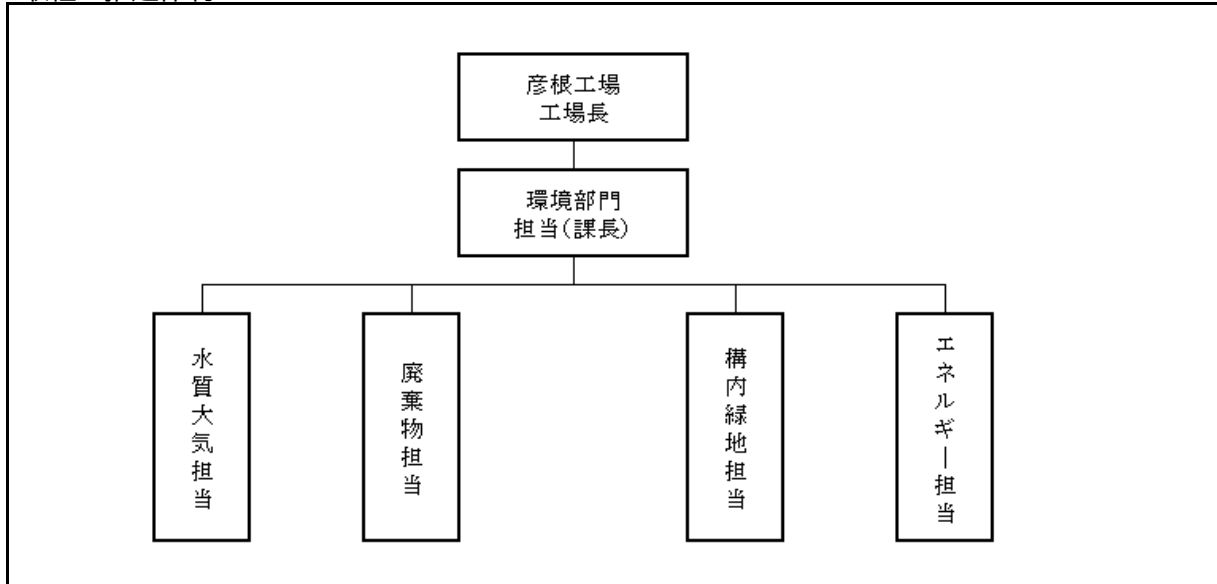
計画の (内容・実施状況)	別添のとおり
------------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

1 CO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

医薬日を通じて人々に夢を与え、患者さんの痛みや苦しみを除き、幸せを願う業務の延長として、社会が永続的に発展出来る様に環境に配慮し、限られた資源を有効に活用することを常に心掛け行動する。

2 取組の推進体制



3 これまでに取り組んできたCO₂ネットゼロ社会づくりに係る取組

- ・熱源用上記操作バルブに保湿剤取付け
- ・重油ボイラーを熱効率の良いガスボイラーに更新
- ・空調用チラーを順次、熱効率の良いガスボイラーに更新
- ・コンプレッサー圧、空調露店温度等の機器設定値の見直し
- ・工場内緑地の維持管理
- ・廃プラスチックを分別し、一部資源化
- ・工場排水を自家処理から下水道に変更し使用エネルギーを削減
- ・建屋を改修するタイミングで照明の自動入り切り採用
- ・照明のLED化を順次推進
- ・夏季と冬季に連休を増やし、操業時間を実質減らす

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO₂排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	設備導入	熱効率の良いチラーの更新(残り2台)	2023年	年度内完了見込
2	設備導入	工場内照明の自動入り切り	工場建物改修時	改修無し
3	設備導入	照明のLED化	順次更新中	セミナーハウス:ロビー
4	設備導入	太陽光システムの導入	2023年～	工事中
5	運用改善	ボイラーの低圧運転	2023年～	実施中

(2) エネルギー起源CO₂以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1				
2				
3				

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
<p>・二酸化炭素排出量を2020年度に対し3年後3%削減する。 その際、電力会社による二酸化炭素の排出増減の影響を無くす様、評価の計算時は2020年度に使用した排出係数[0.340]を3年間通して使用し、自社分のみを評価する。</p>	<p>・排出係数を[0.340]で固定した場合、二酸化炭素排出量は、2020年度:3,049トン、2021年度:3,064トンに比べ、2022年度はボイラー使用の効率化を実施し、2508トンと大きく削減できた。2023年度も同様に実施すれば目標は達成可能と評価する。</p>

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	単位	計画開始年度前年度の実績	実績報告				
			2021)年度	2022)年度	()年度	()年度	()年度
原油換算エネルギー使用量	kL	1,792	1,785	1,499			
温室効果ガス総排出量	t-CO ₂	3,049	3,159	2,349	0	0	0
エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	3,049	3,159	2,349			
非エネルギー起源CO ₂	t-CO ₂	0	0	0	0	0	0
CH ₄	t-CO ₂						
N ₂ O	t-CO ₂						
HFCs	t-CO ₂						
PFCs	t-CO ₂						
SF ₆	t-CO ₂						
NF ₃	t-CO ₂						
エネルギー等原単位の推移							

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第3面)

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	太陽光発電システムの導入	2024年5月稼働	工事中
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ()	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

		計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
			(2021)年度	(2022)年度	()年度	()年度	()年度
再エネ電気設備での発電量	kWh	0	0	0			
上記のうち自家消費量	kWh	0	0	0			